

科目名	看護管理	対象学生・時期	3年生・前後期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	看護師			
科目目標	1. 看護管理の目的と機能が理解できる。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動が理解できる。 3. リーダーシップとメンバーシップを理解し、マネージメントの基礎が理解できる。 4. 看護を経営的・経済的側面から考えることができる。			
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 人々の生活と看護	1. 看護の役割	講義	
2		2. 看護活動の場 施設から地域へ	講義	
3	2. 看護管理過程	1. 組織と看護マネジメント 2. 看護管理 3. 看護師の仕事とその管理	講義	
4	3. 看護の質保証と看護管理	1. 看護サービスの組織化 2. ケアの改革 3. 患者の権利擁護と看護倫理 4. 安全管理体制 5. 看護実践の評価と改善 6. 研究活動と実践への応用 7. 病院機能評価	講義	
5	4. 看護管理のスキル	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. アサーティブコミュニケーション 3. コーチング	講義	
6	5. 看護と経営	1. 経営とは 2. 看護師に求められる経済的な視点	講義	
7	6. 看護職と生涯学習	1. 看護専門職とキャリア開発 2. 看護師の育成 1) クリニカルリーダー 2) プリセプターシップ 3. 看護に関する法律 4. 看護政策と行政	講義	
8	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考	・看護管理とは、看護をしくみとしてとらえ、チームや組織、システムを動かしていく活動をいう。			

科目名	医療安全	対象学生・時期	3年生・前期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	看護師A 看護師B 看護師C			
科目目標	1. 医療における安全管理の必要性が理解できる 2. 医療事故の事例から安全管理の方法を理解できる			
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 医療安全と看護	1. 医療安全の意味と重要性 2. 看護職の倫理・法律	講義	A
2	2. 医療安全の基礎知識	1. 有害事象 2. 医療事故の種類	講義	A
3	3. リスクマネジメント	1. 事故発生のメカニズム 2. 事故分析 3. 事故対策	講義	A
4	4. KYT について	1. KYT の実践	講義 GW	A
5				
6	5. 実習における医療安全	1. 実習を通して学んだ医療安全 1) 実習における学生の責任 2) 事故発生時の対応	講義 GW	A
7	6. 医療安全対策	1. チームステップスについてと実際	講義 GW	A
8				
9				
10				
11				
12	7. 医療安全のためのコミュニケーション	1. 患者家族への対応 2. コミュニケーショントラブルと対処方法 3. 医療事故後の対応	講義 GW	A
13	8. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	1. 感染の危険を伴う病原体 2. 感染に対する標準予防策 3. 医療機器の使用に関わるもの 4. 医薬品への曝露と対応	講義	B
14				C
15	まとめ・単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考	13.14 回は、専門分野 I 感染の技術 専門分野 II アレルギー・膠原病・感染症の講義の中で学習した内容を想起する			

科目名	国際・災害看護	対象学生・時期	3年生・前後期		
		講義時間(単位)	30時間(1)		
講師名	専任教員A 医師B 医師C 看護師D 看護師E				
科目目標	1. 国際看護の意義と看護の対象が理解できる。 2. 日本の国際協力・国際援助と看護について理解できる。 3. グローバルな視点で世界の人々の健康・生活課題と国際看護活動の実際について理解できる。 4. 諸外国の看護基礎教育を理解できる。 5. 災害の定義及び災害医療の概要が理解できる 6. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護が理解できる				
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合の実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	1. 国際看護とは 2. グローバルヘルス	1. 国際協力と看護 2. 自国の公衆衛生からグローバルヘルス	講義	A	
2	3. 国際協力のしくみ	1. 世界の健康問題の現状 2. 先進国と開発途上国に違い	講義	A	
3	4. 多様な文化と看護	1. 日本における文化 2. 国際社会における看護の対象 3. 文化を考慮した看護	講義	A	
4	5. 諸外国の看護基礎教育	1. アメリカの看護基礎教育	演習	A	
5		2. 中国・韓国の看護基礎教育 3. ヨーロッパの看護基礎教育		A	
6	6. 国際協力活動	1. 国際機関の役割 2. 国際協力活動における看護の役割	講義	A	
7	1. 災害医療の基本	1. 災害とは 2. 指揮命令系統 3. 安全確保 4. 情報伝達・共有 5. 評価	演習	B C	
	2. 一次救急処置	1. BLS の実際 演習			
8	1. 災害看護とは	1. 災害の分類・種類 2. 災害医療と救急医療の違い 3. C S C A T T T	講義	D	
9		4. 災害サイクルと情報 5. 他職種との連携	講義 演習	D	
10	1. 災害看護の役割	1. 災害看護の役割、対象者 2. サイクル別の看護介入	講義 演習	D	

11	1. 災害サイクルに応じた看護活動	1. 災害サイクルに応じた看護活動 1) 急性期～亜急性期	講義	E
12		2) トリアージ	講義	E
13		3) 慢性期～静穏期 2. 災害とこころのケア	講義	E
14	1. トリアージの実際	1. S T A R T法トリアージ 2. 搬送について	演習	E
15	まとめ・単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	臨床看護技術演習	対象学生・時期	3年生・前後期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員A 専任教員B			
科目目標	1. 基礎分野から専門分野Ⅱまでに学んだ看護の知識・技術をもとに、複合した治療処置、生活援助技術を必要とする対象の援助を考え、技術を実践することができる。 2. 患者の看護の優先度および複数患者の看護の優先度を考え、援助技術の実践ができる。 3. 自己の看護技術の到達状況と課題を明確にできる。			
使用テキスト	授業内容により異なる。 使用テキストは事前に提示するが、必要なものは各自で準備する。			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	ガイダンス	1) 看護師に求められる実践能力 2) 看護の質の保証 3) 2次の事例提示	講義	A
2	膀胱留置カテーテル挿入中の患者のシーツ交換	1) グループでの看護計画 2) 援助の実際 3) 評価 4) 演示・質疑応答	演習	A
3	輸液をしている臥床患者の寝衣交換	1) グループでの看護計画 2) 援助の実際 3) 評価 4) 演示・質疑応答	演習	A
4	点滴静脈内注射の準備と静脈留置針刺入の固定	1) 指示の確認 2) プライミング 3) 固定 4) 側管注	演習	A
5	痛みを訴える患者への与薬とシーツ交換	1) グループでの看護計画 2) 援助の実際 3) 評価 4) 質疑応答	演習	A
6 7	優先順位の考え方①②	1) 複数受け持ちの行動計画	演習	B
8 9	COPD 酸素療法中の患者の検査移送	1) 酸素ボンベの残量計算 2) 酸素カニューレの付けかえ 3) 呼吸困難時の対応	演習	B
10	優先順位の考え方③	1) 突発事項が起こった場合の対応	演習	B
11	優先順位の考え方④	1) 患者の意向を聞き、行動計画を変更する	演習	B

1 2 1 3	糖尿病の患者の看護	1) 糖尿病の理解 2) 低血糖時の対応	演習	B
1 4 1 5	血液疾患をもつ患者の看護 まとめ	1) 白血病 2) 治療 (化学療法)	演習	B
評価方法	・課題レポート等			
備考	学習の進捗により、授業形態および授業順序等を変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。			

科目名	在宅看護概論	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	非常勤講師			
科目目標	1. 地域で生活しながら療養する対象とその家族を理解し、在宅における看護について理解できる 2. 在宅看護の意義と役割を理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	在宅看護の目的と特徴	1. 在宅看護の目指すもの 2. 在宅看護の対象 3. 在宅看護の場	講義	
2	在宅看護における看護師の役割と機能	1. 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 2. 在宅看護における看護師の倫理 3. 超高齢化社会の進展と地域連携システム 4. 地域医療システムにおける多職種連携（行政・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・住民との連携）	講義	
3	在宅看護の特徴	1. 在宅看護の機能 2. 在宅看護の内容 3. 在宅生活を可能にする要件 4. 在宅看護における権利の保障	講義	
4	在宅看護の対象	1. 対象者の特徴 2. 対象者の主病傷	講義	
5	家族介護の現状と課題	1. 在宅看護の対象者としての家族 2. システム理論を用いた家族のとらえ方 3. 家族アセスメント	講義	
6	在宅看護のしくみ	1. 訪問看護制度の創設と発展経緯 2. ケアマネジメントの概念と機能 3. 介護保険制度 4. 訪問看護制度	講義	
7	海外の在宅看護事情	1. 海外の訪問看護サービス 2. 国家試験問題の実施	講義	佐藤
8	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	在宅看護援助技術	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	非常勤講師A 非常勤講師B 非常勤講師C 非常勤講師D 専任教員E			
科目目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術が習得できる 2. 生活援助用具とその利用方法を理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	在宅看護技術	1. 在宅看護技術の特徴 2. 在宅で求められる看護技術 1) コミュニケーション 2) フィジカルアセスメント	講義	A
2	在宅看護における安全と健康危機管理	1. 日常生活における安全管理 2. 災害時における健康危機管理	講義	B
3	在宅で求められる看護技術	1. 呼吸に関する在宅看護技術 2. 食生活・嚥下に関する在宅看護技術	講義	B
4	在宅で求められる看護技術	1. 排泄に関する在宅看護技術 2. 清潔に関する在宅看護技術	講義	B
5	在宅で求められる看護技術	1. 移動・移乗に関する在宅看護技術 2. 服薬管理 3. 自己注射	講義	B
6	在宅で求められる看護技術	1. 家族看護 2. 訪問リハビリ看護	講義	C
7	在宅で求められる看護技術	1. 疼痛緩和ケア 2. エンドオブライフケア	講義	D
8	在宅における医療管理技術	1. 非侵襲的陽圧換気療法 2. 在宅酸素療法	講義	B
9	在宅における医療管理技術	1. 吸引・吸入 2. 気管切開部の管理	講義	B
10	在宅における医療管理技術	1. 褥瘡の予防とケア 2. 尿道留置カテーテル	講義	B
11	在宅における医療管理技術	1. ストーマケア 2. 腹膜透析	講義	B
12	在宅における医療管理技術	1. 経管栄養法 2. 在宅中心静脈栄養法 3. 認知機能のアセスメント法と援助	講義 演習	B
13	福祉用具	1. ロボット事業の見学	講義・演習	E
14	福祉用具	1. ロボット事業の見学	講義・演習	E
15	評価	筆記試験、レポート		
評価方法	配点 100 点			
備考	評価は各担当講師より評価計画（筆記、レポート）と配点は異なる。合計 100 点とする。			

科目名	在宅で療養する対象の看護	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	非常勤講師 A 非常勤講師 B			
科目目標	1. 在宅看護を展開するための方法が理解できる 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開が理解できる 3. 在宅看護を展開するための方法が理解できる 4. 社会資源を活用し、多職種と協働する中での看護の展開が理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	在宅看護の実際	1. 訪問看護介入時の特徴 2. 訪問看護師に求められていること 3. 多職種の連携 4. 訪問看護とセルフケア	講義	A
2	脳卒中を起こした患者の在宅看護	1. 退院（転院）の流れ 2. ケアプランと看護計画 3. 事例紹介	講義	A
3	終末期の看護	1. 疼痛コントロール 2. 看取りにおける看護師の役割 3. 在宅ケアチーム、チーム医療	講義	A
4	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護	1. パーキンソン病の症状とケア 2. 在宅ケアの連携について 3. 在宅・病院・施設の選択 4. パーキンソン病患者の QOL	講義	A
5	神経難病の療養者に対する在宅看護	1. 難病の在宅看護 2. 心理的ケア・アセスメント 3. 事例に沿った在宅看護 4. 看護小規模多機能型サービス	講義	A
6	認知症の療養者に対する在宅看護	1. 認知症の療養生活 2. 家族看護 3. せん妄の看護 自尊感情へのアプローチ	講義	A
7	連携とマネジメント	1. 在宅とは（1）地域	講義	B
8	連携とマネジメント	1. 在宅とは（2）家族	講義	B
9	連携とマネジメント	1. ケアマネジメントの概念 生活ニーズ	講義	B
10	連携とマネジメント	1. ケアマネジメントの概念 社会資源	講義	B
11	連携とマネジメント	1. マネジメントの過程 2. 介護保険	講義	B
12	連携とマネジメント	1. サービスの導入と調整 1	講義	B
13	連携とマネジメント	1. サービスの導入と調整 2	講義	B
14	在宅看護の展開	1. 精神看護	事例検討	B
15	単位認定試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（2 講師配点各 50 点）			
備考				

科目名	在宅看護論演習		対象学生・時期	2年生・後期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	非常勤講師A 専任教員B				
科目目標	1. 在宅における療養者と家族の状況に応じた生活支援の方法が理解できる。 2. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントや訪問看護の必要性が理解できる。				
使用テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	在宅看護における看護過程の展開	1. ガイダンス 1) 演習スケジュール、進め方、課題 2. 在宅看護における看護過程 3. 在宅看護介入時期別の特徴と看護計画 4. 訪問看護導入のプロセス	講義	B	
2	事例展開① 事例の理解と初回訪問時の情報収集内容の検討	1. 事例紹介（予定） ①在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者 ②在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者 ③最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 ④重症心身障害を持ちながら地域で生活する小児 2. 事例の熟読と情報の整理 3. 初回訪問時の情報収集内容の検討 4. 初回訪問時ロールプレイのシナリオ作成 5. 訪問看護のマナー	講義 GW	A	
3	事例展開②	1. 訪問看護師のマナーと訪問看護導入のプロセス行動の理解 1) 初回訪問場面の実施 （チャイムを鳴らすところから、訪問看護を終了し、玄関を出るところまで）	ロールプレイ	A	
4	事例展開②	1. 初回訪問で得られた情報の整理 2. アセスメント 3. 全体像把握	GW	B	
5	事例展開③	1. 看護問題抽出 2. 優先順位の検討 3. 看護計画立案	GW	B	
6	事例展開④	1. 看護計画内容の共有	発表	A	
7	ケアマネジメント①	1. 各事例の数か月後の追加情報の提示 2. 事例の熟読と状況の理解	GW	B	

		3. サービス利用状況の整理 4. 支援の方針や目標の見直し、修正		
8	ケアマネジメント②	1. 支援の方針や目標、見直し案の討議 2. 見直し案に基づいた訪問看護計画の修正 3. 次回の訪問看護時ロールプレイのシナリオ作成	発表 GW	B
9・10	ケアマネジメント③	1. サービス見直し後の訪問看護計画の見直し案の提案 1) 訪問看護場面の実施	ロール プレイ	B
11	場面の事例検討①	事例① ・介護者の介護負担の軽減の検討（社会資源の活用、介護方法の工夫） 等	GW	A
12	場面の事例検討②	事例② ・人工呼吸器を装着している療養者とその家族への支援、停電時や災害時に備えた危機管理の視点 等	GW	A
13	場面の事例検討③	事例③ ・家族への麻薬の取り扱いの指導、看取りの意思を再確認した時点での看護計画、 等	GW	A
14	場面の事例検討④	事例④ ・人工呼吸器の管理で気をつける点、小児の経管栄養を行う上で注意する点、レスパイトを目的とした制度 等	GW	A
15	評価	レポート		B
評価方法	配点 100 点 演習の参加状況、態度、課題提出、発表等を採点し評価			
備考				